

## (7) 討論主題――『医療貢献を目指した分析化学』

オーガナイザ：豊岡利正（静岡県大）

我が国は、世界各国に先がけて超高齢社会を迎え高齢者が加速度的に増加しています。しかし、健康な人は稀で、多くの高齢者が病気を患っています。疾病を早期に発見・治療し、健康で質の高い社会生活を全うすることは、人類永遠のテーマであり希望です。病院等の医療現場では、疾病の診断や薬物療法等の治療方針の決定等を目的とした様々な生体内物質の分析が不可欠となっています。当然ながら、使用される方法は、迅速かつ正確であることが必要です。近年測定機器の進歩や分析技術の発展に伴い、迅速化・高感度化が進み、様々な新しい方法が診断等に利用されつつあり、今後益々生体試料分析（バイオアナリシス）が医療に貢献しうると考えられます。本討論では、疾病の診断や治療の評価に寄与すると考えられるバイオアナリシス研究を、様々な立場から指導的に実践し、第一線で活躍している研究者によるご講演をお願いし、今後の展望について議論を展開したいと思います。薬学を研究領域とする研究者のみならず、分析科学に携わる多くの研究者が主導的に活躍できる分野の一つとして、今後の発展が期待されます。

### 【依頼講演】

- 1) 機能性ポリマーによる DDS 研究（仮題）（東大）加藤 大
- 2) 非侵襲的試料による疾病診断（静岡県大）豊岡利正
- 3) インフルエンザウイルスの蛍光イメージング（静岡県大）高橋忠伸
- 4) MS イメージングの医療への貢献（阪大）新聞秀一
- 5) PET イメージングの医療への貢献（金沢大）小川数馬

※演題は仮題を含みます。